

## 国際シンポジウム

テーマ：「中国の海洋進出と周辺国の対応」

日時：12月14日（土）13：30～18：20

場所：東館6階G-SEC Lab

使用言語：日本語、中国語、英語（同時通訳）

中国の海軍力増強がさまざまな警戒を呼び、日本においては尖閣諸島をめぐる領土問題と絡めて論じられるなか、本シンポジウムは時機を得たテーマとして高い関心を集めた。また会場はラウンドテーブル形式の設定であったが、その中央には中国との関係改善を象徴する卓球台を設営し、シンポジウムからのメッセージとした。

報告においては、中国、台湾、ベトナム、米国、そして日本のパネリストたちが各人の観点から中国の海洋進出を分析した。ベトナム・中国のトンキン湾をめぐる協調は戦略的な相互信頼の好例として評価された一方、日中間の摩擦に対しては危機認識が共有され、安定を維持するためのコントロールが必要だとする意見も示された。ディスカッションにおいて各パネリストは相互の見解の不一致も含め、きわめて客観的かつ冷静に討論し、中国と共存するための議論を展開した。フロアからの質疑応答では、中国の防空識別圏、空母「遼寧」の建設、「中国の夢」等についての質問が挙がり、各パネリストが丁寧に回答を寄せた。

### 【プログラム】

13：00 開場

総合司会：加茂具樹（慶應義塾大学）

13：30 - 13：50 開会の挨拶

高橋伸夫（慶應義塾大学現代中国研究センター長）

趣旨説明 安田淳（慶應義塾大学）

13：50 - 16：00 パネリスト報告

司会：安田淳（慶應義塾大学）

張煒（中国国際問題研究基金会海洋研究中心）

「亜太地区海洋安全与中国海上力量的発展」

Andrew R. Wilson（米海軍大学）

“China Returns to the Sea:China's Contemporary Sea Power in Historical Perspective”

Do Tien Sam（ベトナム社会科学院中国研究所）

「越中在北部湾劃界協定中的關係及其对東海問題解決的啓発」

林 正義（中央研究院欧米研究所）

「中國海警及其在東海的執法」

村井友秀（防衛大学校）

「東アジアの小さな戦争」

16：00 - 16：20 コーヒーブレイク

16：20 - 18：00 ラウンドテーブル・ディスカッション

18：00 - 18：20 閉会の挨拶

国分良成（防衛大学校校長）